

介護2年

分野	必修科目		科目番号		単位数	1単位
科目名	キャリア入門Ⅱ		授業形態	講義・演習・実習	時間数	30時間
			開講時期	2年次通年	授業回数	15回
担当教員	大谷 久也(介護福祉士) 野口 清孝(介護福祉士)	実務経験	大谷:27年/野口:12年1月			
分野	(必修)介護		科目番号		単位数	2単位
科目名	介護総合演習Ⅱ		授業形態	講義・演習	時間数	60時間
			開講時期	2年次通年	授業回数	30回
担当教員	大谷 久也(介護福祉士) 劉 美由起(看護師) 野口 清孝(介護福祉士)	実務経験	大谷:27年/劉:14年6月/野口:12年1月			
分野	(必修)介護		科目番号		単位数	2単位
科目名	日常生活支援技術Ⅲ		授業形態	講義・演習	時間数	60時間
			開講時期	2年次通年	授業回数	30回
担当教員	野口 清孝(介護福祉士)	実務経験	野口:12年1月			
分野	(必修)介護		科目番号		単位数	4単位
科目名	介護実習Ⅱ		授業形態	演習	時間数	180時間
			開講時期	2年前期	授業回数	24日
担当教員	大谷 久也(介護福祉士) 劉 美由起(看護師) 野口 清孝(介護福祉士)	実務経験	大谷:27年/劉:14年6月/野口:12年1月			
分野	(必修)介護		科目番号		単位数	1単位
科目名	介護過程演習Ⅱ		授業形態	講義・演習	時間数	30時間
			開講時期	2年前期	授業回数	15回
担当教員	大谷 久也(介護福祉士) 野口 清孝(介護福祉士)	実務経験	大谷:27年/野口:12年1月			
分野	(必修)介護		科目番号		単位数	1単位
科目名	介護の基本Ⅱ-1		授業形態	講義・演習	時間数	30時間
			開講時期	2年前期	授業回数	15回
担当教員	大谷 久也(介護福祉士)	実務経験	大谷:27年			
分野	(必修)介護		科目番号		単位数	1単位
科目名	介護の基本Ⅱ-2		授業形態	講義・演習	時間数	30時間
			開講時期	2年後期	授業回数	15回
担当教員	大谷 久也(介護福祉士)	実務経験	大谷:27年			
分野	(必修)こころとからだのしくみ		科目番号		単位数	1単位
科目名	認知症の理解Ⅱ		授業形態	講義	時間数	30時間
			開講時期	2年後期	授業回数	15回
担当教員	黒田 祥子(看護師)	実務経験	黒田:39年11月			
分野	(必修)介護		科目番号		単位数	1単位
科目名	介護過程演習Ⅲ		授業形態	講義・演習	時間数	30時間
			開講時期	2年後期	授業回数	15回
担当教員	大谷 久也(介護福祉士) 野口 清孝(介護福祉士)	実務経験	大谷:27年/野口:12年1月			

(介護)

## 授 業 概 要

授業のタイトル (科目名)	授業の種類		授業担当者
キャリア入門Ⅱ	(講義)・(演習)・(実習)		大谷 久也 (介護福祉士) 野口 清孝 (介護福祉士)
実務経験	大谷：27年	野口：12年1月	
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期	必修
15回	30時間 (1単位)	2年 後期	
キャリア入門 [授業の目的・ねらい] 「自分を知る」「社会を知る」「キャリアの決定方法を知る」を通して「生きること・学ぶこと・働くこと」についての理解を深める。 [授業全体の内容の概要] 授業を通して学生生活で何をするのかを明確にし「考える」介護福祉実習や多くの経験を通して、自分の可能性を探り「試す」なりたい自分になるために挑戦「挑む」具体的目標に向けて活動する「磨く」というサイクルを身につける。課外講座やアクティブラーニングを通して課題の発見と解決に向けて主体的・協働的に学ぶ。 [授業修了時の達成課題(達成目標)] 介護福祉専門職として「自己理解・他者理解」を深め「自分」を人にわかりやすく伝える力を身につけ自分とは異なる価値観・経験をもつ人の話に耳を傾け自分のキャリア形成に生かすこと、社会と繋がるために必須のコミュニケーション能力をグループワークやディスカッションを通して磨く。介護福祉士として働く自分がイメージできる。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
コマ数 1. 職業社会の基礎知識(就職・働く意味を考える)① 2. 職業社会の基礎知識(履歴書を書き方)② 3. 職業社会の基礎知識(面接の受け方)③ 4. 社会人基礎力(選挙権・投票を考える)① 5. 社会人基礎力(介護の日啓発活動)② 6. 社会人基礎力(介護の日啓発活動)③ 7. 異なる価値観に触れる(施設ボランティアを通して)① 8. 異なる価値観に触れる(施設ボランティアを通して)② 9. 異なる価値観に触れる(施設ボランティアを通して)③ 10. 自分を知る(アクティブラーニングを通して)① 11. 自分を知る(アクティブラーニングを通して)② 12. 自分を知る(アクティブラーニングを通して)③ 13. 介護のキャリアデザインを考えよう① 14. 介護のキャリアデザインを考えよう② 15. まとめ			
[使用テキスト・参考文献] 適宜資料配布		[単位認定の方法及び基準] 出席及び受講態度 レポート提出等	

(介護)

## 授 業 概 要

授業のタイトル (科目名)	授業の種類	授業担当者	
介護総合演習Ⅱ	(講義・演習・実習)	大谷久也 (介護福祉士) 劉美由起 (看護師)	
実務経験	大谷：27年 劉：14年6月 野口：12年1月	野口清孝 (介護福祉士)	
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期	必修
30回	60時間(2単位)	2年 通年	
[授業の目的・ねらい] 実習Ⅱに向けての個別ケアのためのアセスメントの方法を理解する。 実習Ⅱの振り返りや実践した介護過程のまとめや報告ができる。			
[授業全体の内容の概要] 個別ケアを行うために個々の生活リズムや個性を理解し、利用者の課題の明確化、介護計画の作成、実習後の評価、計画の修正といった介護過程の展開の理解を深めていく。介護実習Ⅱで展開した介護過程を介護事例研究として発表する。			
[授業終了時の達成課題 (到達目標)] 介護過程の展開のために個別の学習到達状況に応じた他科目で学習した知識や技術の総合ができ、介護実習で実践できる。介護事例研究を通して、様々な書物を読み、実践した介護過程が正しかったのかを振り返ることができる。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1. 実習要項の説明 2～5. 介護実習Ⅱの実習目標・実習計画立案 6～11. 介護実習Ⅱの期間中の登校日における記録のまとめ 12～13. 介護実習Ⅱの最終的な記録・まとめ 14～22. 事例研究 23～26. 事例研究報告会 27～30. 事例研究の修正			
[使用テキスト・参考文献] 新・介護福祉士養成講座10 「介護総合演習・実習 第3版」 中央法規出版		[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など) 出席・態度・提出物 事例研究への取り組み	

(介護)

## 授 業 概 要

授業のタイトル (科目名)		授業の種類		授業担当者	
日常生活支援技術Ⅲ		(講義)・(演習)・実習)		野口清孝 (介護福祉士)	
実務経験	野口：12年1月				
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期		必修	
30回	60時間(2単位)	2年 通年			
[授業の目的・ねらい]					
介護を必要とする人が、どのような状態であっても、尊厳を保持しながらその人らしく生きられるよう、あらゆる介護場面において、基本的な介護の知識・技術・態度を習得する					
[授業全体の内容の概要]					
障害に応じて、それぞれの障害の理解と生活を支えるための基本介護技術を学ぶ。					
[授業終了時の達成課題 (到達目標)]					
利用者の尊厳を大切にしながら、利用者の主体的な生活を支える生活介護技術を実践できるようになる					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]					
コマ数					
1. 利用者の状態・状況に応じた生活支援技術とは					
2～3. 視覚障害に応じた介護					
4～5. 聴覚・言語障害に応じた介護					
6～7. 重複障害(盲ろう)に応じた介護					
8～9. 運動器障害に応じた介護					
10～11. 内部障害(心臓機能障害)に応じた介護					
12～13. 内部障害(腎機能障害)に応じた介護					
14～15. 内部障害(呼吸器機能障害)に応じた介護					
16～17. 内部障害(膀胱・直腸機能障害)に応じた介護					
18～19. 内部障害(肝臓機能障害)に応じた介護					
20. 知的障害に応じた介護					
21. 精神障害に応じた介護					
22～23. 高次脳機能障害に応じた介護					
24. 発達障害に応じた介護					
25～26. 重症心身障害に応じた介護					
27～28. 認知症の人への介護					
29～30. 認知症介護における生活支援展開					
[使用テキスト・参考文献]			[単位認定の方法及び基準]		
新・介護福祉士養成講座8 「生活支援技術Ⅲ第3版」 中央法規出版			講義受講態度・演習取組態度・提出レポート・筆記試験により評価		

(介護)

## 授 業 概 要

授業のタイトル (科目名)		授業の種類		授業担当者	
介護実習Ⅱ		(講義・演習・ <b>実習</b> )		大谷久也 (介護福祉士)	
実務経験	大谷：27年 劉：14年6月 野口：12年1月			劉美由起 (看護師) 野口清孝 (介護福祉士)	
実習日数	時間数(単位数)	配当学年・時期		必修	
24日	180時間 (4単位)	2年 後期			
[実習の目的・ねらい] 個別ケアを行うために個々の生活リズムや個性を理解し、利用者の課題を明確にするための利用者ごとの介護計画の作成、実施後の評価やこれを踏まえた計画の修正といった介護過程を展開し、他科目で学習した知識や技術を総合して、具体的な介護サービスの提供の基本となる実践力を習得する。					
[実習全体の内容の概要] 一つの施設・事業等において一定期間以上継続して行う実習。 利用者ごとの介護計画の作成、実施後の評価やこれを踏まえた計画の修正といった一連の介護過程を継続的に実践する。					
[実習終了時の達成課題 (到達目標)] ①個々の利用者の生活背景や生活リズムを理解しながら必要な情報を収集する。 ②「介護過程」で学んだプロセスを実践し、自立支援の観点から介護過程の展開を行う。 ③利用者の実習指導者を始めとした介護職員等と相談しながら、立案した介護計画に基づいた介護を提供し、自ら行った介護実践の評価や計画の修正を行う。 ④施設や事業所のカンファレンス等に参加し、介護を行う上で必要な他の職種との連携について学ぶことで、生活支援チームの一員として介護福祉士の役割について理解する。					
[実習の日程と各回のテーマ・内容・方法]  1. 介護老人福祉施設等において 24日間の介護実習を行う。  ・入所者とのコミュニケーションをとりながら、介護に必要な情報とは何かを理解する。 ・他職種との連携のもとに適切な介護技術を実践する。 ・施設の運営、地域との関わり、福祉サービスに対する理解を深め、チームの一員としての役割を果たす。 ・個別の介護計画を立案し、介護過程を展開する。					
[使用テキスト・参考文献] 新・介護福祉士養成講座 10 「介護総合演習・介護実習 第3版」 中央法規2015			[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など)		

(介護)

## 授 業 概 要

授業のタイトル (科目名)	授業の種類	授業担当者	
介護総合演習Ⅱ	(講義・演習・実習)	大谷久也 (介護福祉士) 劉美由起 (看護師) 野口清孝 (介護福祉士)	
実務経験	大谷：27年 劉：14年6月 野口：12年1月		
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期	必修
30回	60時間(2単位)	2年 通年	
[授業の目的・ねらい] 実習Ⅱに向けての個別ケアのためのアセスメントの方法を理解する。 実習Ⅱの振り返りや実践した介護過程のまとめや報告ができる。			
[授業全体の内容の概要] 個別ケアを行うために個々の生活リズムや個性を理解し、利用者の課題の明確化、介護計画の作成、実習後の評価、計画の修正といった介護過程の展開の理解を深めていく。介護実習Ⅱで展開した介護過程を介護事例研究として発表する。			
[授業終了時の達成課題 (到達目標)] 介護過程の展開のために個別の学習到達状況に応じた他科目で学習した知識や技術の総合ができ、介護実習で実践できる。介護事例研究を通して、様々な書物を読み、実践した介護過程が正しかったのかを振り返ることができる。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1. 実習要項の説明 2～5. 介護実習Ⅱの実習目標・実習計画立案 6～11. 介護実習Ⅱの期間中の登校日における記録のまとめ 12～13. 介護実習Ⅱの最終的な記録・まとめ 14～22. 事例研究 23～26. 事例研究報告会 27～30. 事例研究の修正			
[使用テキスト・参考文献] 新・介護福祉士養成講座 10 「介護総合演習・実習 第3版」 中央法規出版 2015		[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など) 出席・態度・提出物 事例研究への取り組み	

(介護)

## 授 業 概 要

授業のタイトル (科目名)		授業の種類		授業担当者	
介護の基本Ⅱ-1		(講義)・(演習)・(実習)		大谷 久也(介護福祉士)	
実務経験		大谷：27年			
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期		必修	
15回	30時間(1単位)	2年 前期			
[授業の目的・ねらい] 「尊厳の保持」「自立支援」という新しい介護の考え方を理解するとともに、「介護を必要とする人」を、生活の観点から捉えることができる。また、介護における安全やチームケア等について理解できる。					
[授業全体の内容の概要] 介護の必要とする人の理解を深め人間の多様性および高齢者の暮らしの実際や障害がある人への理解を深める。 生活環境の考え方を学び、生活の視点から知識を深める。					
[授業終了時の達成課題 (到達目標)] 介護を必要とする人が「なぜ介護が必要なのか」を様々な角度(多様性・暮らしの実際・生活環境)から理解できる。また、介護サービスの特徴、チームアプローチによるサービスの提供(介護サービス概要・提供の場の特性)、多職種の専門性の理解と実践現場のイメージができる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]					
コマ数					
1. 介護福祉士を取り巻く状況					
2. 社会福祉士及び介護福祉士法					
3. 介護における専門職能団体の活動					
4. 介護福祉士の倫理①介護実践における倫理					
5. 介護福祉士の倫理②日本介護福祉士会倫理綱領					
6. 介護サービスの特性①意味と特性					
7. 介護サービスの特性②種類と提供の場					
8. 介護サービス提供の場とその特性①高齢者に対する居宅系・入所系					
9. 介護サービス提供の場とその特性②障がい者に対する居宅系・入所系					
10. 障がい者の介護と高齢者の介護					
11. 多職種連携①協働職種の理解と連携のあり方					
12. 多職種連携②利用者を取り巻く地域連携のあり方					
13. 地域連携の意義と目的					
14. 地域連携にかかわる機関の理解					
15. 利用者を取り巻く地域連携					
[使用テキスト・参考文献] 新・介護福祉士養成講座 3 「介護の基本Ⅰ第3版」中央法規出版 2016 新・介護福祉士養成講座 4 「介護の基本Ⅱ第4版」中央法規出版 2017			[単位認定の方法及び基準] 出席状況・授業中態度・課題レポート・筆記試験を総合評価する。		

(介護)

## 授 業 概 要

授業のタイトル (科目名)		授業の種類		授業担当者	
介護の基本Ⅱ-2		講義・演習・実習)		大谷 久也(介護福祉士)	
実務経験		大谷：27年			
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期		必修	
15回	30時間(1単位)	2年 後期			
[授業の目的・ねらい] 「尊厳の保持」「自立支援」という新しい介護の考え方を理解するとともに、「介護を必要とする人」を、生活の観点から捉えることができる。また、介護における安全やチームケア等について理解できる。 [授業全体の内容の概要] 介護の必要とする人の理解を深め人間の多様性および高齢者の暮らしの実際や障がいがある人への理解を深める。 生活環境の考え方を学び、生活の視点から知識を深める。 [授業終了時の達成課題 (到達目標)] 介護を必要とする人が「なぜ介護が必要なのか」を様々な角度(多様性・暮らしの実際・生活環境)から理解できる。また、介護サービスの特徴、チームアプローチによるサービスの提供(介護サービス概要・提供の場の特性)、多職種専門性の理解と実践現場のイメージができる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]					
コマ数					
1. 介護における安全の確保・重要性 2. 事故防止、安全対策 3. リスクマネジメント 4. 感染管理のための方策①生活のなかのリスクと対策 5. 感染管理のための方策②生活の自立とリスクマネジメント 6. 感染管理のための方策③事例を通しての演習 7. 介護に携わる人の健康管理 8. 健康管理の意義と目的 9. 健康管理に必要な知識と技術 10. 安心して働ける環境づくり 11. 緊急、救急時対応・災害時ネットワーク 12. 燃え尽き症候群・スーパービジョン 13. ボディメカニクスや応用・福祉用具・環境改善 14. ストレス管理 15. まとめ・評価					
[使用テキスト・参考文献] 新・介護福祉士養成講座3 「介護の基本Ⅰ第3版」中央法規出版 2016 新・介護福祉士養成講座4 「介護の基本Ⅱ第4版」中央法規出版 2017			[単位認定の方法及び基準] 出席状況・授業中態度・課題レポート・筆記試験を総合評価する。		



(こころとからだのしくみ)

## 授 業 概 要

授業のタイトル (科目名)	授業の種類	授業担当者	
認知症の理解Ⅱ	(講義)・演習・実習	黒田祥子 (看護師)	
実務経験	黒田：39年2月		
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期	必修
15回	30時間 (1単位)	2年 前期	
目的：認知症の基本的な知識を基に、その人らしさを大切にする介護の実践を学ぶ。 目標：1. 認知症の人々の体験を理解する。 2. 認知症の人々の生活を理解する。 3. 認知症の人々に対する介護の基本を理解する。 4. 地域の力を活かした連携と協働の実際を理解する。 5. 家族の力を活かす関わりを理解する。 6. 認知症に関する制度・関係機関を理解する。			
[授業日程・内容]			
Ⅰ. 認知症の人の体験の理解 <4時間：2回> 担当：黒田			
1. 認知症の人の介護をしていくために			
2. 認知症の人の体験			
Ⅱ. 認知症の人の生活理解 <4時間：2回> 担当：黒田			
1. 認知機能の変化が生活に及ぼす影響			
2. 環境の力			
3. 生活を続ける			
4. 若年性認知症の人の生活の理解と支援			
Ⅲ. 認知症の人に対する介護 <8時間：4回> 担当：黒田			
1. 認知症の人へのかかわりの基本			
2. 認知症への気づき—おかしいなと思ったら			
3. 認知症の人の介護過程			
4. 認知症の進行に応じた介護			
5. 人が生きることを支えるということ			
Ⅳ. 地域の力を活かす—連携と協働 <4時間：2回> 担当：前島			
1. 地域におけるサポート体制			
2. チームアプローチ			
Ⅴ. 家族の力を活かす <6時間：3回> 担当：前島			
1. 介護者自身の体験			
2. 家族へのレスパイトケア			
3. 家族へのエンパワメント			
4. 家族会と介護教室			
Ⅵ. 認知症に関する制度・関係機関など <4時間：2回> 担当：前島			
1. 認知症対策と介護保険制度			
2. その他の施策			
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準]	
新・介護福祉士養成講座12 「認知症の理解 第3版」中央法規出版		筆記試験・課題レポートによる評価	

(介護)

## 授 業 概 要

授業のタイトル (科目名)	授業の種類		授業担当者
介護過程演習Ⅱ	(講義)・(演習)・実習)		大谷 久也 (介護福祉士)
実務経験	大谷：27年		
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期	必修
15回	30時間(1単位)	2年 前期	
[授業の目的・ねらい] 介護実習Ⅰ－②で経験した様々な介護の場面を振り返り、実践過程を構成する要素(人的・環境 ツール)の特徴や活用方法を学ぶ。 現場実践者の話から介護過程は常に流動するものであり、支援者として場面や環境の変化に柔軟に対応したケアの提供が求められていることを理解し今まで学んだこととこれから学ぶべきことの目的と目標を長期的・短期的な視点で立てることが出来るようになる。			
[授業全体の内容の概要] 利用者の生活の質の向上に向けて生活上の課題を把握し必要な介護のあり方を個別に考察し計画を立て、実施・評価していく一連の流れを演習を通して学ぶ。			
[授業終了時の達成課題 (到達目標)] 介護過程に必要な知識と技術を身につけ、専門職の一員として他職種との連携を行う事ができる利用者を取り巻く環境を意識し、社会の動きに関心を持ちその方法を理解できるようになる。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
コマ数 1. 実習Ⅰ－②の事例を整理しよう① 2. 実習Ⅰ－②の事例を整理しよう② 3. 実習Ⅰ－②の事例を整理しよう③ 4. 実習Ⅰ－②の事例を整理しよう④ 5. 実習Ⅰ－②の事例を整理しよう⑤ 6. 情報収集の方法 フェイスシート 7. 情報収集の方法 アセスメント表(1) 8. 情報の解釈・関連付け・統合化 9. 課題の抽出・優先順位 10. 介護計画書 11. 実施評価票 12. 実習Ⅱに向けて① 13. 実習Ⅱに向けて② 14. 実習Ⅱに向けて③ 15. まとめ・評価			
[使用テキスト・参考文献] 新・介護福祉士養成講座9 「介護過程 第3版」 中央法規出版 2015		[単位認定の方法及び基準] 出席状況・授業中態度・課題レポートを総合評価する。	

(介護)

## 授 業 概 要

授業のタイトル (科目名)		授業の種類		授業担当者
介護過程演習Ⅲ		(講義)・(演習)・(実習)		大谷 久也 (介護福祉士)
実務経験	大谷 : 27年			
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期	必修	
15回	30時間(1単位)	2年 後期		
[授業の目的・ねらい] 介護実習Ⅱで経験した様々な介護場面を振り返り、介護過程とケアプラン(介護サービス計画)・ケアマネジメントの関係や関連性を具体的に学ぶ。 介護過程の展開に伴い、他職種との連携、ケースカンファレンス・サービス担当者会議の必要性や求められる知識を再確認し、提出資料の作成や会議の進め方を学ぶ。				
[授業全体の内容の概要] 実習Ⅱで学生がまとめた事例から、適切な事例を選択したり、地域生活支援までつながる事例を設定し、授業の目的・ねらいにそった演習・体験学習を展開する。				
[授業終了時の達成課題(到達目標)] 介護過程の展開時、施設サービス計画や、居宅サービス計画と関連させて考えていくことの必要性、連携すべき関連職種やネットワークの作り方、地域の生活支援サービスの全体像と今後の課題がつかめる。				
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]				
コマ数				
1. この授業のねらい				
2. 介護過程の展開とケアプラン・ケアマネジメントの考え方の整理				
3. チームアプローチの重要性と関連職種				
4. <演習1>通所介護・短期入所生活介護の利用者の場合 ①				
5. <演習1>通所介護・短期入所生活介護の利用者の場合 ②				
6. <演習1>通所介護・短期入所生活介護の利用者の場合 ③				
7. 模擬ケアカンファレンスの実施				
8. <演習2>特養・老健からの在宅復帰支援の利用者の場合 ①				
9. <演習2>特養・老健からの在宅復帰支援の利用者の場合 ②				
10. <演習2>特養・老健からの在宅復帰支援の利用者の場合 ③				
11. 模擬サービス担当者会議の実施				
12. 介護過程とチームアプローチの今後				
13. 地域生活支援での介護過程の展開の課題				
14. これからの地域生活支援体制づくりの課題				
15. まとめ・評価				
[使用テキスト・参考文献] 新・介護福祉士養成講座9 「介護過程 第3版」 中央法規出版 2015			[単位認定の方法及び基準] 出席状況・授業中態度・課題レポートを総合評価する。	